

みなとみらい産官学ラウンドテーブル 第31回公開セミナー

音楽評論家、作詞家である湯川れい子氏に「音楽の力～ビートルズが教えてくれたこと～」というテーマで、ご講演をしていただきました。

最初に、湯川氏はビートルズが1966年に初来日し、日本武道館で公演をした時のことを話されました。何故武道館で公演をしたのか、武道館で公演をすることになった際の世間の反応、来日時の警備の物々しきや当日の警備員の「立たないでください、座って聞いてください」と連呼していた様子などが語られました。その中でも、初来日のきっかけは、ビートルズ側から日本で公演したいという打診があったからという話は非常に興味のある話でした。

その後、ビートルズの音楽は誰から影響を受けたのかという話に移り、黒人音楽の強い影響を受けたエルビス・プレスリーの影響、ジョン・レノンが「エルビス・プレスリーやボブ・ディランがいなければ、私たちはいなかった」とまで言った彼らからの影響などについて話されました。特に、ボブ・ディランが、時には正当に評価されないこともあったが、常に変化をし続けていることについて、ボブ・ディランの思い出とともに強調されていたのが印象的でした。

これらを踏まえ、湯川氏は、思春期になじんだ音楽は心に深く刻まれており、死ぬまでその音楽は自分自身を幸せにしてくれるが、新しい音楽を決して否定しないでほしいと語られました。

次に、音楽療法の話をされました。ビートルズの公演から6年後に米国で音楽療法に出会ったこと、聴覚は胎児のときに最初に発達する器官であり、死の直前まで聴覚の機能は維持されることを話された。胎児が初めて聞くリズムは心音であり、母の心音が穏やかであれば胎児も心豊かに成長すると話され、生まれてきた赤ちゃんが、様々な理由で母に抱かれず過ごすことが多い現代の仕組みについて疑問を呈されました。また大人になっても、気に入った音楽を聴きながら歩くと心が安らぐこと、また、自分自身の呼吸に耳を澄ませることが大事だと語られた。おっぱいを与えるときに子守唄を歌ってあげてください、歌うと同時に心臓の音が聞こえるぐらい強く抱きしめてあげてくださいという湯川氏の言葉には力がこもっていました。＜この間いくつかの映像作品を見させていただき、湯川氏のお考えがよく理解できました＞

最後に、会場の皆さんに立ち上り、伸びをし、屈伸をさせたうえで、用意されたCDの音楽を聴きながらそれに合わせて呼吸をしました。皆さん顔がピンク色になり、体が柔らかくなったみたいでした。これを1日に1回行うことをお勧めしますという湯川氏の提案を聞き、講演は終わりました。

アンケートでは下記のような意見を頂きました。

参加者 110 名の内 74 名からアンケートの回答があり、大半の方から「期待した内容である」、「参考になる」という評価を頂きました。

アンケートでは下記の意見をいただきました。

- ・音楽の力の大切さを知った。
- ・湯川先生のお話を聞いて若返った気がした。
- ・こんな素敵な講演会が無料とは驚き。
- ・湯川先生の言葉が心に響いた。

《講演会の様子》

